

シンポジウム

京都の宮廷文化と 双京構想の歴史的意義

京都は、千年以上もの長きにわたり都として栄え、宮中文化が育まれてきました。東京の皇居以外に唯一現役の御所があり、江戸時代にも、御所を中心に宮廷公家社会の文化が継承され、発展を遂げています。こうした京都の宮廷文化を通して、東京と京都の双方で我が国の都としての機能を果たす「双京構想」の意義について、参加者の皆さんとともに考えるシンポジウムを開催いたします。

とき・ところ

平成28年 **10月8日** **土**

午後1時30分(1時開場)～午後3時30分

キャンパスプラザ京都 5F 第1講義室

(下京区西洞院通塩小路下ル) ビックカメラ前/JR京都駅ビル駐車場西側

定員

250名 **先着順**

事前申し込みは必要ありません。
直接会場へお越しください。

プログラム

① 基調講演 「京都の宮廷文化と双京構想の歴史的意義」
所 功(京都産業大学名誉教授)

② パネルディスカッション
テーマ:「京都の宮廷文化と双京構想の歴史的意義」

双京構想とは

「双京構想」は、京都の行政、産業、大学、文化・観光、メディアのトップが、30年後の京都の「ありたい姿」を自由に語り合い、オール京都で、府民、市民と一緒に目指したいと思う未来像を描くことを目的に、平成22年4月に設置された「京都の未来を考える懇話会」の議論の中で発表したものです。

日本の大切な皇室の弥栄、そして、わが国の伝統を守り、文化を発展させるため、皇族の方に京都にもお住まいいただき、政治・経済の首都である「東京」と、歴史・文化の首都である「京都」の双方で、わが国の都としての機能を果たし、日本創生を実現することを目指すものです。

出演者情報(敬称略・五十音順)

パネリスト



ごしま くにはる
五島 邦治 (京都造形芸術大学教授)

1952年京都生まれ。1977年京都大学文学部哲学科卒業、1986年大谷大学大学院文学研究科仏教文化専攻国史学分野卒業。専門は日本文化史、京都を中心とする都市の歴史。京都市歴史資料館嘱託、彦根城博物館資料室長補佐、園田学園大学教授を経て現在に至る。



さかもと たかし
坂本 孝志 (特定非営利活動法人京都観光文化を考える会・都草 特別顧問)

1945年北海道札幌市生まれ、1963年芦別市啓南商業高等学校卒業後、社団法人京都微生物研究所入所。2005年社団法人京都微生物研究所退職、第2回京都検定1級合格。2007年NPO法人京都観光文化を考える会・都草理事長に就任。2016年同NPO法人理事長を退任して特別顧問に就任。



にしむら わか
西村 和香 (葵祭 第61代 斎王代(平成28年))

江戸時代前期から続く京漆器の老舗「象彦」社長の長女として生まれる。京都ノートルダム女子大学卒業。母和美さんも1980年に第25代斎王代を務めており、親子2代5組目で斎王代を務めた。叔母2人も斎王代を務める。現在は同社で広報を担当。学芸員資格を持ち、趣味は美術館巡り。

コーディネーター



ところ いさお
所 功 (京都産業大学名誉教授)

1941年12月生まれ、名古屋大学大学院修士課程卒業。皇學館大学助教授、文部省教科書調査官を経て、1981年から京都産業大学教授。法学博士(日本法制文化史)。2012年から京都産業大学名誉教授、モラロジー研究所教授(研究主幹)、2014年京都新聞賞受賞。

お問合せ

京都市 総合企画局 総合政策室

TEL:075-222-3375

FAX:075-212-2902

アクセス



下京区西洞院通塩小路下る東塩小路町939
京都市営地下鉄烏丸線、近鉄京都線、JR各線「京都駅」下車。徒歩5分。
お越しの際は、可能な限り「京都市バス」、「京都市営地下鉄」をご利用ください。